

言語の簡略化から見た 「やさしい日本語」と「手話ニュース」

松本 美穂

1. はじめに

現在、外国にルーツを持つ地域住民の増加などに伴い、日本語を第一言語としない人々に対する「やさしい日本語」が注目されている。これは通常の日本語の語彙や文法をコントロールし簡略化した日本語であるが、何が「やさしい」のか、という点についての定説はなく、実態は漠然としている。

そこで、本研究では「やさしい日本語」とは、何がどのように簡略化されている日本語なのか、どうすれば日本語ネイティブ（日本語を第一言語とする者）が「やさしい日本語」を駆使できるようになるのかなどを明らかにすることを目的とし調査することにした。その際、放送等の場面で運用実績をもつ「手話ニュース」を手がかりにして社会言語学の「言語の簡略化」視点から分析する。

2. 先行研究

2.1. 「やさしい日本語」のルール

はじめに吉開がまとめた「やさしい日本語」のルールをみる。「やさしい日本語」の文法や語彙のレベルについては、「JLPT¹旧試験区分における3級（現在のN4およびN3の一部）と4級（現在のN5）の範囲以内（吉開2020）」とされている。

吉開は話す時の「やさしい日本語」のルールとして3つ挙げている。1つ目は「はっきり言う」ことで、曖昧な言い方をせず明瞭に発音することが重要であるとしている。2つ目は「さいごまで言う」ことで、言いよどみを避け文末まで言うことが大切である。3つ目は「みじかく言う」ことで、単文がシンプルでわかりやすいとしている。

2.2. 「やさしい日本語」の現状

次に2021年現在の「やさしい日本語」の広がりをみていく。吉開によれば「やさしい日本語」は自治体の政策では以前から使われていたが、2018年に外国人人材の獲得に方針転換したことをきっかけに文部科学省や総務省など

¹ 日本語能力試験の略。日本語能力試験とは国際交流基金と日本国際教育支援協会が実施している日本語を母語としない人の日本語能力を測定し認定する試験。5段階のレベルがあり、N5が最もやさしいレベルで、N1が最も難しいレベルとなっている。

の省令でも使用されるようになった。また 2020 年には入管庁と文化庁が「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」を作成し公表した。その後、「やさしい日本語」の講座や研修が盛んに行われている。外国人社員がいる企業向けの「やさしい日本語」を使うワークショップ形式の研修や、外国人児童などがある教育機関向けの「やさしい日本語」を練習する講座などがある。さらに 2020 年には「入門・やさしい日本語」認定講師養成講座が開講されている。

「やさしい日本語」の対象は外国人だけでなく、日本人の子どもや高齢者、障がい者などに拡大しており、掲載媒体も新聞などの紙媒体に加え、東京都の「やさしい日本語(にほんご)・キッズコーナー」のように子ども向けのニュースを「やさしい日本語」で記載しているウェブサイトも多数ある。

2.3. 言語としての手話

少数言語の研究団体が公開しているデータベースであるエスノログでは、世界にはおよそ 7,000 以上の言語があり、そのうち現在も使用されている手話は 149 あるとしている。手話はろう者²がコミュニケーションをとるために作られ使用されている言語で、国や地域によって異なる。日本で使用されている手話は、ろう者にとっての母語（第一言語）である「日本手話」、事故や病気などの事情により中途聴覚障がいになってしまった人が使用する「日本語対応手話」、ろう者と聞こえる人とのコミュニケーションで使われる「中間型手話」の 3 種類がある。「日本手話」は語彙数が 5,000 語ほどで、独自の文法体系がある。これに対し、「日本語対応手話」と「中間型手話」は日本語をベースにしている。「日本語対応手話」は日本語の文法や語順などに手話の単語を対応させる。そして「中間型手話」は日本語の語順で単語を手話で表し、口頭で助詞を補う。

日本語と「日本手話」の相違点を確認する。日本手話は手指の動きや形と表情で言葉や文を表しており、聞こえる人が話す音声言語の語順や文法とは異なっている。亀井(2009)によれば日本語で「私が食べたいのは、魚です。」という文を日本手話で表わすと「私」+「食べる」+「ほしい」+「何」+「魚」という語順になる。この場合「食べたい」は「食べる」と「ほしい」の手話の組み合わせで表され、助詞もないことから日本語とは文法も異なっていることがわかる。

加えて日本手話が音声言語と異なる点として、表情が重要な役割を持っていることである。日本手話では顔や首の動き、表情も言葉や文を表す役割を担っており、手指の動きと同時に読み取る必要がある。日本手話では文の最後にうなずけば平叙文、あごを突き出せば「何」や「誰」などを問う疑問文になる。

² ここでは音声言語を獲得する前に失聴した人を指す。

日本手話の表現には特徴が 2 つある。CL(Classifier)と呼ばれるもので、「具体的に何を指しているのかはさておき、形や性質に着目してずばりそのものの特徴をとらえ、相手に伝えるという方法」である(亀井 2009 前掲書)。例えば杖や棒は日本手話では「細長いもの」と表現され、表情や手の位置によって杖なのか棒なのか変わる。もうひとつは指文字と呼ばれる「片手で日本語の五十音を表現する方法」で、ベルギーやデンマークのように手話での表し方が知られていない地名や人名、また手話が作られていない新語などに使われる。ただしろう者同士の会話で、「初めまして」のような手話で表現できる言葉を指文字だけで「は、じ、め、ま、し、て」と表すことはない。

2.4. 日本手話と「手話ニュース」、「やさしい日本語」における簡略化

先行研究における日本手話と「やさしい日本語」の簡略化についてまとめると、まず日本手話の簡略化は手や指で形や性質など物の特徴を簡潔に表現し、具体的な物は表情や手の位置で表現するというように、表情や顔の動きなどの組み合わせによって多様な表現ができることである。これにより語彙数を少なくし、ろう者の負担を減らしている。

ところで、聴覚障がい者³向けに、テレビ放送ではいくつかの「手話ニュース」番組があり、日本手話とアナウンサーによる読み上げの音声、振り仮名付きの日本語字幕のように複数の手段で情報が伝えられている。これら音声や字幕にも簡略化された表現が見られる。

一方、「やさしい日本語」の簡略化は、語彙や文字表現の制限や言い換え、単文の使用や文の終わりの明示などが中心になる。また、内容伝達を重視するうえで情報を制御することが必要になる。ただし、それが日本語話者にとって不自然と感じられることが少ないよう配慮することも求められる。

このような簡略化を踏まえ、本研究では、日本手話そのものは対象とせず、「手話ニュース」に用いられる字幕や音声における日本語の簡略化と「やさしい日本語」の言語上の簡略化をさらに詳細に分析し、そこから、より使いやすい「やさしい日本語」となるための方法を探ることとする。

3. 本調査

3.1. 対象

本調査では「総合ニュース」と「やさしい日本語ニュース」、「手話ニュース」の 3 つのニュース番組を対象にデータを収集し分析に使用する。データ収集は 2021 年 5 月 5 日から 6 月 30 日の約 2 ヶ月間行い、3 つのニュースに共通している内容のニュースを扱う(表 1)。

³ ここでは軽度の難聴から重度の難聴やろうなどの聴覚になんらかの障がいがある人を指す。

項目	「総合ニュース」	「手話ニュース」	「やさしい日本語ニュース」
期間	2021年5月5日～6月30日		
媒体	NEWS WEB	手話ニュース 845	NEWS WEB EASY
メディア	オンライン	テレビ放送	オンライン
対象	一般的な閲覧者	聴覚障がい者	日本語学習者など
時間/本		1～4分	
使用言語	一般的な日本語 文字情報 一部音声付動画	日本手話と音声 字幕	やさしい日本語 文字情報 合成音声
項目本数	42本	40本	40本
文字数/本	392～5,449字	81～1,321字	273～394字

表1 各ニュースのデータ情報

「総合ニュース」はNHKニュースサイトにある「NEWS WEB」から42本収集した。「NEWS WEB」は一般的な閲覧者を対象としており、一般的な日本語が使用され文字情報と一部音声付動画で情報発信されている。

「手話ニュース」は「手話ニュース 845」というテレビ番組から40本収集した。「手話ニュース 845」は主に聴覚障がい者向けの日本手話とアナウンサーによる読み上げの音声で情報発信されており、一本のニュースは1分から4分程度である。

「やさしい日本語ニュース」は「総合ニュース」と同様にNHKニュースサイトにある「NEWS WEB EASY」から40本収集した。「NEWS WEB EASY」は主に日本語学習者を対象とし、やさしい日本語で書かれた文字情報で情報発信している。また合成音声でそのニュースを聞くこともできる。

それぞれ一本のニュースの文字数は「総合ニュース」が392字～5,449字、「手話ニュース」が81字～1,321字、「やさしい日本語ニュース」が273字～394字となっている。

3.2. データ収集

1) NEWS WEB

「総合ニュース」のデータは、NHKのニュースサイトである「NEWS WEB」から収集した。「NEWS WEB」は会見やコメントが多く掲載されているが、そのほとんどは閣僚や知事等の意見で、記事の末尾に一人ずつ概言がつけられ掲載されている。

2) 手話ニュース 845

「手話ニュース」のデータは、月曜日から金曜日の20時45分から21時までの15分間放送されている「手話ニュース 845」という番組から収集した。

「手話ニュース 845」では番組の冒頭にヘッドライン紹介があり、紹介されたニュースは一本4分程度で、その後のショートニュースや番組の最後に紹介

される行事に関するニュースは 1 分程度の長さである。行事に関するニュースでは、手話とアナウンサーの読み上げの音声はなく、映像と字幕のみで紹介している。本研究の対象は「手話ニュース」に用いられる字幕や音声であるから本調査では除外した。

「手話ニュース 845」は音声と手話通訳者やろう者のキャスターによる日本手話、振り仮名付きの日本語字幕、のように複数の手段で情報が伝えられているが、本調査では音声と字幕を調査対象とし、日本手話は扱わない。

3)NEWS WEB EASY

「やさしい日本語ニュース」のデータは、総合ニュースのデータ収集で使用した「NEWS WEB」を「やさしい日本語」に書き換えた「NEWS WEB EASY」から収集した。「NEWS WEB EASY」は主に日本在住の外国人や子ども向けにやさしい日本語で書かれており、合成音声によるやや遅めのスピードで読み上げを聞くこともできる。また振り仮名の表示の選択や、人名や地名、会社名等の固有名詞の色分け表示の選択ができる。そして難しい語彙や書き換えによって不自然になる語彙は、文中で説明を補うか、もしくは小学生用の辞書の説明がポップアップで表示されるようになっている。

3.3. 調査方法

「総合ニュース」、「やさしい日本語ニュース」、「手話ニュース」、それぞれの番組は同じ内容のニュースを伝えてはいるが、表現されたものは言語としてどのぐらいの相違があるのだろうか。それを明らかにするため、言語量(語数、文節数など)、言語の質(使用語彙の差異など)などから比較する。言語の質では、それぞれのニュースで出現した語彙の語種の構成を調べる。また「手話ニュース」あるいは「やさしい日本語ニュース」のみで出現した語彙を比較し、各ニュースでの言い換えなど語彙の調整の視点からニュースの語彙の簡略化の特徴を探る。

まず 3 つのニュース番組の文章データをそれぞれ「KH Coder⁴」にかけ文や語の数を調べた。そして、「KH Coder」が抽出した単語の使用頻度を算出し、頻度の高い 150 語を分析対象とした。

次に、「リーディング・チュウ太⁵」を使って「KH Coder」で抽出した語彙のうち使用頻度の高い 150 語の語彙の難易度を調べた。そして 3 つのニュース番組の使用語彙の語種の異同を調査するため、国立国語研究所の形態素解析ツール「Web 茶まめ⁶」を使用し、3 つのニュース番組の語種の数を比較し、さ

⁴ 文章のデータから語彙を抽出し、抽出した語彙の数やその使用頻度などを算出し、共起関係等をグラフや図で見ることができるフリーソフトウェアである。

⁵ 日本語読解学習支援システムというもので、文章を入力すると語の難易度が表示される。語彙の難易度の表示は日本語能力試験を基準としている。

⁶ 文章データを、意味をもつ最小単位である形態素に分割し、それぞれの語の品詞や語種を判別するもの。

らにそれぞれの語種の語彙の難易度の分布の差を分析した。

4. 分析結果

4.1 言語量

1) 単語数

3つのニュース番組で収集したニュースをそれぞれ「KH Coder」にかけ、出現する語について分析した。それぞれの総抽出語数は「総合ニュース」は48,130語、「手話ニュース」の音声は12,835語で「総合ニュース」のおよそ4分の1の語数、字幕は9,862語だった。「やさしい日本語ニュース」は8,516語で「総合ニュース」のおよそ6分の1の語数だった。

「やさしい日本語ニュース」の出現回数の上位6語で比較すると「人」が69回、「月(がつ/げつ/つき)」が63回、「言う」が62回「ウイルス」が55回、「東京」が42回、「新しい」が34回となっており、上位3位「人」、「月」、「言う」が圧倒的に多い。それぞれ「総合ニュース」と「手話ニュース」での出現回数を比べると、その順位は「人」は「総合ニュース」では112回で5位、「手話ニュース」では21回で21位、「月」は「総合ニュース」では128回で3位、「手話ニュース」では26回で10位、「言う」は「総合ニュース」では21回で141位、「手話ニュース」では4回で268位、「ウイルス」は「総合ニュース」では60回で32位、「手話ニュース」では20回で22位だった。「人」と「言う」は「総合ニュース」と「手話ニュース」では必ずしも上位出現語彙にはなっていない。このことから「やさしい日本語ニュース」は言い換えの際に「人」や「言う」などの簡単な語を多用する傾向があると考えられる。

2) 文・文節数

一本のニュースを構成している文の数を比較した結果、「総合ニュース」は平均20文、「手話ニュース」の音声では平均11文、「やさしい日本語ニュース」は平均7文だった。文の数は「総合ニュース」と比べると「手話ニュース」はおよそ半分、「やさしい日本語ニュース」はおよそ3分の1になっており、対象を一般的な閲覧者から聴覚障がい者や日本人学習者などに限定すると文が少なくなっていることがわかる。

また、『日本語話し言葉コーパスの構築法』の「文節の認定基準」というマニュアルにもとづいて、収集したすべてのニュースを文節に区切ったところ、一文の文節数は「総合ニュース」では平均18文節だが、「手話ニュース」の音声は平均7文節で半分以下に、「やさしい日本語ニュース」は平均10文節で半分ほどになっていた。このことから「手話ニュース」と「やさしい日本語ニュース」は「総合ニュース」より一文の長さが短いことがわかる。

さらに文末表現については、「総合ニュース」で会見や意見は「だ・である

調」であり、それ以外の文は「です・ます調」で書かれていた。「手話ニュース」の字幕は体言止めまたは「だ・である調」で終わっているが、音声は「です・ます調」になっていた。これに対して「やさしい日本語ニュース」の文末は会見などであってもすべて「です・ます調」に統一されていた。

4.2. 言語の質

ここでの言語の質とは、語彙レベルや語種の差異、言い換えを指す。

それぞれのニュース番組について、まず「KH Coder」にかけ、使用回数の多い上位 150 語を抽出した。それをさらに「リーディング・チュウ太」を使用して語彙レベルを調査した。

1) 語彙レベル

結果では、「総合ニュース」と「手話ニュース」は N2・N3 の語彙が最も多いが、「やさしい日本語ニュース」は N5 の初級語彙が最も多かった。「やさしい日本語ニュース」の使用語彙は上位 150 語のうち N5 と N4 の語彙が合わせて 58% を占めていて、その使用回数は 63% と使用頻度が高い。また下記の表から「やさしい日本語ニュース」は N1 や級外の語彙数も使用回数も、他のレベルに比べて少ないことがわかる。「NEWS WEB EASY」は N4 を原則としており、この調査でも概ね原則の通りであることがわかった（表 2、表 3、表 4、表 5）。

「総合ニュース」

レベル	語彙数(語)	回数(回)
N1	15	738
N2・N3	56	2,470
N4	30	1,156
N5	19	701
級外	21	787

表 2 「総合ニュース」の抽出語彙の数とその使用回数

「手話ニュース」(音声)

レベル	語彙数(語)	回数(回)
N1	18	254
N2・N3	53	757
N4	21	254
N5	25	272
級外	22	274

表 3 「手話ニュース」の抽出語彙の数とその使用回数

「手話ニュース」(字幕)

レベル	語彙数(語)	回数(回)
N1	18	233
N2・N3	55	645
N4	20	192
N5	20	187
級外	26	273

表 4 「手話ニュース」(字幕)の抽出語彙の数とその使用回数

「やさしい日本語ニュース」

レベル	語彙数(語)	回数(回)
N1	8	90
N2・N3	25	324
N4	38	468
N5	49	633
級外	15	122

表 5 「やさしい日本語」ニュースの抽出語彙の数とその使用回数

2) 語種

「Web 茶まめ」を使用し、3つのニュースの語種を調査した。「総合ニュース」は和語が1,038語、漢語が1,818語、混種語が62語、外来語が284語、固有名詞が281語だった。「手話ニュース」の音声は和語が560語、漢語が932語、混種語が32語、外来語が97語、固有名詞が102語だった。「やさしい日本語ニュース」は和語が287語、漢語が271語、混種語が9語、外来語が55語、固有名詞が107語だった。

「総合ニュース」と「手話ニュース」は漢語が最も多かったが、「やさしい日本語ニュース」は和語が最も多かった。「やさしい日本語ニュース」は漢語と和語の語数の差があまりなかったが、「総合ニュース」と「手話ニュース」は差が大きいことから一般的な日本語のニュースでは和語より漢語を多く使う傾向があることがわかる。漢語は少ない文字数で意味を表現できることから、放送時間に制限のある「手話ニュース」では漢語の使用頻度が高くなると考えられる。

3) 固有名詞

それぞれのニュース番組で用いられる固有名詞の特徴を「人名」「地名」「施設名」「組織名」「法律名」「その他」の6つに分類した(表6)。

	「総合ニュース」 (語)	「手話ニュース」 (語)	「やさしい日本語 ニュース」(語)
人名	131	35	22
地名	67	48	44
施設名	86	11	6
組織名	79	38	21
法律名	5	3	2
その他	42	16	12

表6 3つのニュース番組の固有名詞の分類ごとの語彙数

まず「人名」の語彙数を「総合ニュース」と比べると、「手話ニュース」はおおよそ4分の1、「やさしい日本語ニュース」はおおよそ6分の1だった。「総合ニュース」では各党の代表や専門家の意見を所属団体名や人名と共に記載しているが、「手話ニュース」と「やさしい日本語ニュース」ではこの情報が大方削除されているからだと考える。同様の理由で「組織名」の語彙数も、「手話ニュース」も「やさしい日本語ニュース」も「総合ニュース」の半分以上であると考えられる。また「総合ニュース」では意見と共に人名が記載されているが、

「手話ニュース」と「やさしい日本語ニュース」で必要な情報の場合、人名を「専門家」と簡単に言い換えているため、「手話ニュース」と「やさしい日本語ニュース」の「人名」の語彙数が大幅に減少していると推測する。

そして「施設名」は「総合ニュース」の語数が他のニュース番組と比べ相当多い。主な理由はオリンピックの観客数に関するニュースの情報の差だと考える。「総合ニュース」はオリンピックで使用する施設名とその収容人数を列挙しているが、「手話ニュース」と「やさしい日本語ニュース」はその情報が削除されている。収容人数に対する重要度の認識が反映されているものと考えられる。

4) 言い換え

上記の結果を踏まえ「手話ニュース」と「やさしい日本語ニュース」がそれぞれどのような言い換えが行われているのかを分析する。

「手話ニュース」は「関西」を「大阪など」のように具体的に示す言い換え方法や、反対に「4月25日」を「先月」のように身近な表現に言い換えることもあった。さらに「使用」から「使う」のように漢語を和語にする言い換えや、ひとまとまりの語を単語に言い換える方法があった。「手話ニュース」は「総合ニュース」の文と同じ文が多く、語彙から語彙の言い換えは滅多に見られなかったが、「総合ニュース」で長い一文を「手話ニュース」では2文以上に分けられており、ニュース独特の表現の変更が多く見られた。

5) 「難から易」ではない言い換え

「手話ニュース」と「やさしい日本語ニュース」の言い換え方法の違いとして、「総合ニュース」の語彙と「手話ニュース」や「やさしい日本語ニュース」で言い換えられた語の語彙レベルの差があげられる。「やさしい日本語ニュース」は難しい語彙から簡単な語彙への言い換えがほとんどだが、「手話ニュース」は必ずしも難から易への言い換えではなく、時には「総合ニュース」の語彙より難しい漢語語彙への言い換えが見受けられた。たとえば、ひとまとまりの語を単語にする言い換えについては、「総合ニュース」では「非常に厳しい」のような表現が「手話ニュース」では「ひっ迫」と語彙としてはより難しい表現が用いられていた。この言い換えは語彙レベルの難易度を調整するという意味での簡略化ではない。

この背景には、「手話ニュース」の放送時間が15分と限られており、その中で7本のニュースを伝える番組構成となっているので一本のニュースにかける時間を短くする必要があると考えられる。ひ

とまとまりの語を繰り返し使用することによる時間の消費を避けるため、難しい語彙であっても的確な漢語に言い換えているのだろう。つまり、「手話ニュース」の簡略化は、簡単な語彙に言い換えるのではなく、限られた放送時間に手話、字幕や音声を含めた複数の表現方法を駆使して聴覚障がい者に対して情報を伝えることに重きを置いた調整であると言える。この点について5.で後述する。

5. 考察

本調査ではそれぞれのニュースの語彙レベルや言い換え、情報の内容に注目して分析を行った。「手話ニュース」と「やさしい日本語ニュース」に共通する簡略化は、一文を短く整理し、ニュース全体の文の数を減らし、情報のうち必要な部分を抜粋すること、であることがわかった。それに対し簡略化の相違点もいくつか見られた。1) 文体、2) 情報の調整、3) 言い換え、4) 言語使用者は誰なのか、5) 「やさしい日本語」のための簡略化、について述べる。

1) 文体

「手話ニュース」は、音声部分の文末はほとんどが「です・ます調」で統一されていたが、字幕は「体言止め」または「だ・である調」になっており、複数の文体が同時に用いられている。一方、「やさしい日本語ニュース」は、単文かつ文末は「です・ます調」で、会見やインタビューも「です・ます調」に統一されていた。

2) 情報の調整

「手話ニュース」では、会見やインタビューに関しては「総合ニュース」の映像を一部使用しており、字幕を付け放送していた。情報は字幕をつけることで調整し、重要度、緊急度が低い情報は削除し全体の簡略化をしている。

「やさしい日本語ニュース」では、情報の調整として対象である外国人に必要な会見などは使用するが、そのまま使用するのではなく必要な情報だけに絞って記載されている。地名、人名などの固有名詞がこの一例である。

3) 言い換え

「手話ニュース」は、「総合ニュース」からの語彙の言い換え部分はあまり多くない。N2・N3の語彙の使用が最も多く、音声だけでは難しい語彙でも映像や字幕による視覚情報で補っている。

一方、「やさしい日本語ニュース」はN5の語彙が最も多く、「手話

ニュース」よりも多くの言い換え方法があった。1つ目は「感染」から「うつる」のように漢語から和語に言い換える方法、2つ目は「変異」を「変化」のように難しい漢語を簡単な漢語にする方法、3つ目は「災害」から「リスク」のように漢語から外来語にする方法である。4つ目は「平年」を「いつもの年」のように単語をひとまとまりの語に言い換える方法で、5つ目は「手話ニュース」と同様に具体的に示す方法である。日本語能力試験の N5 や N4 の語彙はそのまま使用されており、それ以上のレベルの語彙は極力簡単な語彙に言い換え、それによりニュアンスが変わってしまう言葉はポップアップで辞書の意味を表示するようにしていた。

これらは、文脈から逸脱しない程度の語彙レベルの制限による言い換えである。「手話ニュース」と「やさしい日本語ニュース」を比べると、対象に合わせて使用する語彙レベルが異なっていることがわかる。

4) 誰のための簡略化か？

複数の文体の併用や、4.2.5) で述べたような「手話ニュース」における言い換えについてさらに考察する。

簡略化する前提として、「やさしい日本語」を必要とする日本語学習者と日本語ネイティブである聴覚障がい者とは、「日本語の運用能力」の点で大きな相違があることに留意する必要がある。「手話ニュース」を視聴している聴覚障がい者は、手話が第一言語であったとしても、日本語によって言語生活をしているネイティブの日本語使用者であり、日常的に日本語を理解し運用している。これは単に語彙や文法を指すのではなく、日本語に関する知識（複数の文体など）やニュースの背景である社会的文脈理解も含める。「手話ニュース」では、音声だけでは情報の受け取りが不十分である聴覚障がい者に対して、音声、手話、要点をまとめた字幕（体言止め、である調）を付けるといった情報伝達手段がとられている。複数の文体を用いることも、漢語を多用することも、その方が限られた時間で的確に情報を伝えるという点で必要な調整である。

これに対して、「やさしい日本語ニュース」を必要とする人にとって日本語はあくまでも外国語であり、文体は「です、ます調」のみ、単文、語彙は初級レベル、社会的文脈に関する情報の制限などが必要になる。つまり、簡略化された日本語であっても「手話ニュース」で用いられる日本語が、必ずしも「やさしい」わけではない、ということになるのではないか。

5) 「やさしい日本語」のための簡略化

以上から情報が多く複雑なものをやさしいものとするためには、まず必要な情報かどうかの判断をして情報整理をすることが肝要である。次に、複雑になっている文章を単文にして一文を短くすることや、文末を調整することで「やさしい」ものになる。その際、不自然な日本語にならないように、言い換える時は文脈に合わせることで、それが難しければ説明を補い、簡単な文型を使用することで自然な「やさしい日本語」になるということがわかった。

6. まとめ

本研究では、「やさしい日本語ニュース」と「手話ニュース」を比較したことで、「やさしい日本語」と「手話ニュース」における簡略化の相違が明らかになった。

「やさしい日本語」も「手話ニュース」でも対象となる人に合わせて一般的な日本語の簡略化が行われているが、対象が異なっているため調整方法は変わる。「やさしい日本語ニュース」は日本語学習者である外国人を対象⁷としているため、語彙は日本語能力試験のN5やN4などの簡単な語彙への言い換え、また多様な文型を使うのではなく簡単な文型が用いられる。外国人では「やさしい日本語」を対象とした相手の日本語レベルに合わせて簡単な語彙の言い換えや単文にするなど、日本語話者は言語調整が必要となる。

それに対し「手話ニュース」では、手話や簡略化された表現での音声や字幕などで聴力の不足部分を補うことで情報伝達している。聴覚障がいがあるとはいえ、日本語学習者に対するような語彙の（難から易への）調整は重要ではなく情報量や情報の発信方法の調整が必要とされる。

これらのことから日本語の簡略化では、相手に合わせて語彙や話し方などを調整する必要があるが、情報の受け手に対して、何を（情報）どのように（方法）提供するか、方法もそれぞれ異なり、多様性を意識することが重要である。それにより、日本語を第一言語とする者にとって、多様な相手との多様なコミュニケーション力の開発へとつながるのではないだろうか。

⁷ もちろん一言で外国人学習者といっても言語背景は多様であり、たとえば漢字圏出身者にとって漢語は必ずしも障害にならないことなど、考慮すべき点は多い。

参考文献

- ▶ 亀井伸孝(2009)『手話の世界を訪ねよう』岩波ジュニア新書
- ▶ 国立国語研究所(2006)『日本語話し言葉コーパスの構築法』“2.8 文節の認定基準”、国立国語研究所、P118-132
- ▶ 吉開章(2020)『入門・やさしい日本語 外国人と日本語で話そう』アスク出版
- ▶ エスノログ「言語識別の問題」
(<https://www.ethnologue.com/about/problem-language-identification>
最終閲覧日:2022/01/07)
- ▶ NHK「NEWS WEB」
(<https://www3.nhk.or.jp/news/> 最終閲覧日:2021/07/26)
- ▶ NHK「NEWS WEB EASY やさしい日本語で書いたニュース」
(<https://www3.nhk.or.jp/news/easy/> 最終閲覧日:2021/07/26)
- ▶ GitHub「KH Coder: 計量テキスト分析・テキストマイニングのための…」
(<https://kncoder.net/> 最終閲覧日:2021/07/30)
- ▶ 国際交流基金「旧試験新試験認定の目安認定基準-日本語能力試験 JLPT」
(<https://www.jlpt.jp/about/pdf/comparison01.pdf>
最終閲覧日:2021/07/26)
- ▶ 国際交流基金・日本国際教育支援協会「日本語能力試験 JLPT」
(<https://www.jlpt.jp/index.html> 最終閲覧:2021/12/01)
- ▶ 東京都「やさしい日本語(にほんご)・キッズコーナー」
(<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/koho/kids/kids.html>
最終閲覧日:2022/01/08)
- ▶ 川村よし子「リーディング・チュウ太」
(<https://chuta.cegloc.tsukuba.ac.jp/> 最終閲覧日:2022/01/25)
- ▶ 国立国語研究所「Web 茶まめ」
(<https://chamame.ninjal.ac.jp/> 最終閲覧日:2022/01/25)